集義外書

脫論一三

昔413
門口
ね 18
巻 3

新論 巻之八

脱論五

一心友問養生ハ大事に而死をわすれそこなふ
といふ。莽々おのく〳〵養生ハ専ら行ハれ大綱なり
見乃大節なるハ其のしハく〳〵。大事と云ふせ
帝竟ハ浮屠氏ハ子孫をしりぞく。大事と云ふせ
ひくしなるや　云ふまでもなく親国あるを忘れ
いくしみるみ。死をわすれ生をそこなふより心
そのく後よりおそれ大事をそのしまよう
すくなく。後すれきうくし。形状よりく。氣力をー。世ヲ
ちけし。これようさわるふぜ孔子の様法をふくをハ。
後いよくくすく虚へ。かくのごとくの徒をいひぜを不知。

大事にあたるさや。今の治を怠しむ事ハ。久しきをそこなふ利害のこゝろおもふべし。案をたて久しきハ利なく。利害ハ義をみて。後ろくまなしの実をとるべし。義を行ふて死をとるハ小事なり。おもふべし。大なる利をなくして悔のこゝろなき。今の世乃至なるべし。笑ふべからず。今の世乃至なるべし。笑ふべからず。義ハ其一つのこゝろもの。もろ〳〵笑人ハ。もろ〳〵笑ふべし。国家天下ハ。国家天下ハ。今のたゝすは。義ハ利害をこゝろ。義をなくして。仁をみて勇をなくして。智をなくして。信をなくして。義ハ利なくして。智をなくして。信をなくして。義ハ利なくして。智をなくして。信をなくして。義ハ利な

たう通をおくるろ時ハ。直ちに渕よ瞰へ
し支柄の思も。善よ和へき也。和ふ和の時也活發
こゝなり。大徳とうけくこれをうけさら
一心友同也と活の法。完あるハ時ハうれて富一め。富こゝはと
を教ききくなり。今時とそれ完あまくく民ハ衆会こう
ひ古ハ兵園之ば故よ古ハなきまき事の
さうと。今九時さを富一め。民と兵一めんすいちか
設ふおう一時さんや　云財用の源を軍ふ。を会すて計。
出るものとそれるこれをこの多財乃源と軍と云農す
利あるハ時ハをとるもの多也。民力餘あまハ必敷
をせまるこゝ多ふるまー。女工ゆうやふく粮ふれてそ
乃婦人。よくおるものと勤ふく。布綿ありふくふ。

之林。今九時をたり人さるふ。をきして云用乃善作くさる時ハ。
用こふしかれ。支会我殊也さる時ハ。川源く成く民
よくたれ時ハ。人民ふ欲をふ。多久てて衆
善和を為ろうさる時ハ。猶者ちこの故よ古ハ。業
をふて方の和よりゆる也。今の信。業九をおやまれり。信よ
富小ゆるおそれなハ。業也。業ちまハもこのる也。来ふ
てハそろ易一。出よたろそさろ多故よ。いめくハ人
おく納め方の貴貴もりみハうさて。
沢ふよ法こかくさまれ和ちる方よ。その法ろ人公の歌を
くなし。方の和をおくく。会さるふも。和を
さおして会さうめ。故よ倹約のちあーな汗をもの

ばかり猶奢ふいでそれ世界の栗みちくてぼひなし仏大方の石仏おも国郡よ及ぶ盗賊水火れてよく多財ハ民よ不仁のそしられ盗をたすと事多し今郡ハ必穀を勝くるおちぐものばかりひやうてそ今郡ハ必穀をうしいとまを財ハかさめてよくひろく更をるしよきおもれく制をれ丸とうたえ殊に商人富よるとく民ふれ　ゆまひくく多し。士貪冬なれすくおくめりて多れ商人殊人ぐよ及ぶおのまる知ハ天下に教をくるさ富人れよの人の設ハ今を行ふまをしてる所る也。林つさ川ハおさくめくハおさ事多とうふ仏ら　向附をめそと

長物出多くく後ハぐとみりふ。今の珍おくくけをふくと林よ入の法とうふ天下まもくくくさ雑法よ及ぶ一今日の食さしぐくさハぐのうてうきおぐめうのくさくくなれの年。今のいてるくハぐのうてうきおぐめうのくさくくなれの年。今のいてるや新材木とうとて。米よりふ其日くに毒よとまよりのおくちう。今も日和よ之あるくく事ふと体すと制禁するとうまふ天ハ仏せられも。面くに朝夕の勤ちねとみきくくふくふ。今明日ハ食ふおもうりきれのものくて新とうひくくへきぐ。ぐの員ときうまそもぐとハめすまてうをぐかくるけ氏よと来の制禁おほくハ罪人法ふくと出まあ一郡士町人おもぐ新よくく不自由まぬくふ仏のくみうとおくふもの

士民ハ天下のおもり。其本国新き国ハ乱よく
商人出ると。安楽ハ移ふ。
ても世中ニつ[illegible]
商の益利やむ[illegible]。
下れ借ハるるものより人
なく。民ゆるふ工商利を
いろ[illegible]
り[illegible]ぱよ商ふの政ハ
なりのハ[illegible]
一学士あり云ふ下れ物を
れの紙なりぬ。国そ
上乃物を敬て下をあ

出久しき敵なり。今度卿大夫士。孺喪みつ。法民周窮
をふかハ損のねもりつおきいまるとくハ必変をんとしたりとて
変せされハ天子よりも速をゆくつ。愛をもちつ。古との書を考つ。
うちこれよ。乃果穀を数して。民をふきいさんとをもつ。
民をして穀不足つ。今邪正をわとこさんとすまいハ。今邪正をわ
ちくつ。民うきりて。きる別る。云ふを換を
ふたいハ奏迪。をとこ活まいハ用をくれつ。用をくれハ。との法
うち民よをもつをとつ。放よこ。二篇可用享とそれ祭祀を
礼の大なる迪。独ふ二篇をのハ文武
箸。礼乃倹なり。ゝ敬のこ如れり。純乃ち礼倹あり人
ゝこれりとこさすてゝ。下をとてを
ほれをなり　向を年ハ人のとる人を。倹約をふ一統

一ともゝ士の多良いよくきいかゝ民ちをく園務をるゝ乃ハ
何そや　云人心の委やまはまいか也。心の委はやめをてゝ多
如よハ人あをとをくゝ。庶人財を生をるあよハ人る
き物を求ゝ。民ちを持くゝ。赤よおもゝ。敬よ士いよくゝ良
良ゝ。民益教民とをれをゝ。孺委乃風俗よりくゝ乃分小
分をふ用ゝれ。何をゝ。ゝ。ゝ今の民よ。
年貢とろくゝてゝとこれとも。民のふをりひとも成へう
らとそのふハ敬ちれふよるゝハ士ハ富くいよくゝとう
てゝ。をれ不仁ちう。民い物奪ちくのあきおひとをゝ。一
年れ妻子の書をも。一秋よむをくゝとゝれ士民ちふ敬
けまとる迪　向天下長久の乎一する。倹の法もゝよあ辰。

行をふるくう今のせは政ふんや　云士君子さう人乃を
学ぶ時ハ仁を好く人民とも仁あまいを欲もり。而欲
あれん自然よ倹もち。仁愛こ而歌よりぞさる倹ふしてい。
よ下のあるなし比法よ出る時ハ必害あり。不出よいをと
まう　同よさる人仁を而欲の災あり。倹約の法を示」
給くも。人民のあるよかりさるもの何そや　云乃ち教
あまるうさされ。人もさうらいて人乃心服せさるハ云あまま
もも徒害也。故よ改をさるふ不ら生存奢なりの
ハ倹約をおくふおるしくいやーどされるものハ
ちこさもくく倹約ハ吾あるうぞ人よいもさうよぞう
おして実いさうさういさる我よ行ふまこさほこと
ろもを

一心及同興滅国継絶世之章　善云民よ功徳あふ人乃ぞ
孫おろつく国を生ひさる封して爵位をこにしめぞ
孫もにハを同姓をこの称く。祭と奉をし。徳ありて
くれさる名と。畢国る時ハゆさる也。皆百下の人乃ぞ
さるおもりぞいみく農と無さるれさる時ハ芒ぞ
しや後世無農さるおまさる時ハ芒ぞいそ
天下の大事二ありぞ。さ二
を家中流浪人さ成くぞ。ハ国を亡一世絶う。
よ救乃教方人よ及ぞ。飢饉の年にあくふく死を。
を歌き天地神明を感激さぞ。さ二つて風信ありさ
あれりぞ。早竟衆一人よりさるくさ久あるぞ。国郡の去
衆みーさいふさぞ。ふ孫おはハ同姓よ及ぶて云也。

是又家中の離散ハ同し。或ハ同郡或ハ乃國郡ちがひあるべく。宰人を投打をふあるべくや　云
　　
　　
　　

祖を滅して下一級となり。郡の老中は五百石の什官となり。郡の下代と成るべきなり。其人の害よりも其の下代と成るべきなり。其人の害よりも其の下代と成るべきなり。其人の害よりも其

所ハ愚ノ甚敷者ニよりてなり。何ノ孟ノ如ク仁ノ道ハ聖人ノ大道ニて万世ニ一乃流ヲ結ヒ一ノ弟子ノ如キ大ナル者ニて天下ノ罪人ニ至ルまで悉ク是ヲ貴ビ是ヲ尊ミ是ヲ慕ヒ是ヲ敬ヒ是ヲ親ミ是ヲ悦ビ是ヲ楽ミ是ヲ頼ミ是ヲ恃ミ是ヲ仰ギ是ヲ願ヒ是ヲ欲シ是ヲ愛シ是ヲ思ヒ是ヲ忘レ難ク是ヲ離レ難ク是ヲ棄テ難ク是ヲ捨テ難ク是ヲ慕ヒ是ヲ恋ヒ是ヲ尊ビ是ヲ重ンジ是ヲ貴ビ

男女とやなりしより一代を経ぬれば。その老役を養ふ子孫とうくれて。その老役を養ふ子孫とうくれて。代を経ぬれば。その老役を養ふ子孫とうくれて。代を経ぬれば。その老役を養ふ子孫とうくれて。代を経ぬれば

をあてこみはれたる。不仁たるてハ。今日おくれかし。
ゑおほきものハをしいてんやゑんや孔門はとゝおくをや當時うん
後人の附會ならんもあらん。おとしてくに信をへうして。高世乃志
ともろこゝまハ。凡情の賜ゑをもまねうまし利欲の根をさ
ふきことゝ。不仁をふくかゝ量は淺しい。古人の跡をうく
重通をちらしおくことハ礼法をちり又おうこまハ西風
とをしく。幸人の君ゑれ大義をとゝさゝるうをさゝ
女ゑも貞女の名成ちしめんとす羊沢虎のはをきゝる成
ふくをおこさんとし。ゑよまをれ神ハちそれ。ゑちきゝ神ハ
あおこる。おろれ罪人ちうそゝ。ゑ羊のはを
ゑくゑ解をとるこゝ。とひえあうれやうまて廣う
同しかうこゝ。ゑよをけまハをゝあうこれよ近けまハ而ゑ

ことあり。君子ゑ学ハ忠信をうとし文ハ此よ中をうこ
一朋友同云。江西の学よりもの仏ハはくいうをも
ちおり傳仏ゑ小見成ゑ人ゑ理性をも辨へうをの大意
ハおまでも聲をふあうちおハ大ちう新史　答云ゑ意
とゝらく。管見を見ゑうくゑ事よとういふ
人をこゝらひくちゑ出ゑねばゑきゝはゑ
ゑ云見成ゑ廃ゑうこゝ。ゑまでいまゝ種を好しゑまゝ立ちう。
超学の自論ハ云ハ一二よ
一学友問。格物致知の名法ハ古昔の經よりおく孔門乃傳
ハもうくゑ作ゝ。ゑ思神くゑ業明一新ひくちう　答云。昔
乃六十四卦を作よ為ゑ格知の名法ありとゝゑ
し。易簡明白よりゑ通ゑ格よ神くゑ作出ゝ新

ひつくるめて一元の氣に納まる。孔子が顏子を
よく知つてゐる非礼視聽言動をするまいとこれ格物
致知の功なり。曾子の一貫を忠恕とやかましくいふ。子
思子孔曾の説れを述ぶるに往一章と一結み附。格物致知
ばかりいふて。向視聽言動をいふ。肝要の思ひ除りをみて
さはいふて。善云ひはしてのひく土用をいふて。元亨利貞
ばかりいふて誠をいはず。仁義礼智ばかりいふて。信といはぬ
為てゝゝのみれゝゝのハいふまでもあり。視聽言
動のやうの思をさとみてるのー。まと顏子が
ハ思乃格ハ不用てゝあり。中人以下のやうハ善式らひ。善
とおもふをこひ善をおもふ。心思動行共
よ善のやうにおもふ。元佳を出るも神通

元の信義大聖神よりも
思念乃基よ始末せざるのみ附
を行の思式格あんや。三月ばかり
あり。其外ゝゝ三月仁よりハるの徒
ゝゝゝ一年中のる思。年月日時をつくしてみて三月
これ。始よりも三月違んばいかゞのハ
のるる。善念のまゝあ除てあり。おりみてもるす
ものく。寂然不動うて感通るる。聖人乃如よハ
そうなよハさるる有。ゝゝ一体乃深玄の
大虚をゝ除ゝゝ。ゝまて
の善なれも。前よりをあるゝゝ年人よりそハ善ゝき程
ゝ善念と須臾をゝしてゝ後ゝる迄

問ふ。孔子ハ視聽言動の未だ禮に合ハざるを告げ給ふとハいへども。答顔子高明廣大なるを以て。孔子今さら告給ふべきやうもなきゆへ。禮を以て告給ふにハあらず。禮ハ末の次第なれバ。禮を以て告給ふハ。末を以て告給ふなり。孔子ハ元ゟ本末一致の道理を知り給ふゆへ。禮を以て告給ふにハあらず。仁ハ元ゟ萬物を一體とするゆへ。きくの字ハ聽言動ともに通ずるの字なり。それゆへ聽の字ハ聽言動ともに通ずるの字なり。それゆへ聽の字ハ聽言動ともに通ずるの字なり。それゆへ聽の

八重ぞおにをおくいちうえもつてしと公とも労をえーて於
ひかうえもつてこれり
一勿反問。まもの四事と知くおもふ人つとも取不知ーく
うえ取人八多ー。重人のなをまでも。今名の貴ふことや。もう所ようへつまくそらうこと
とハのそや　答云人乃知ハ我を要とうり。我病ふ乱ひうこー。要をうてあふて体まふー労をんてとうる
ちり。知くふしうと云とも。思よ徳ありてもてーまうこれあう
と。亂家のおひうるひうる人をん万人は一人れ知人ふ。
我を労とうる人ハ我ようりく。我病亂
をていはちりそ。おまうこ乃人よおめうまふく今

陰くかうへてをおー。旦徳をもそこれつまんう。そーつまハ
思うる我指ー法まてつ先ー。対共告ず我ふうしるやさく
てくさしむきんてを移うるこれまー亂力と
の名とりて不名を好。旦まもよおせ下事多ー。なひ
ようさうる西名とう待ふてハ乃徳の病ともちる人まう
云むもくぬ西をおはをまて名ばけうさうハ実の雖
過。ふ人をうるいをそれおまでも重人をて陽虎う
まうひうち。大徳乃人ハ雖も大おて。みうてことをうる
ちり。思うてこれ不徳のをおハ。ふうは西名をて按の雖
おるも。おち元人の私まねうまさる放よ。そうくうまを
そー。ふうまでも我ふよをしてくるくハ。つてくるもおハ

くらべ
一等友問。儒佛乃辨ようやく紛紜なる故。彼是仏を不知とのみ。吾たゞ儒仏を明さんこゝろあれど仏をも学ばへーや　云被と争うみるよ学ひて非なること大なるさる有り。江漢汲濯之秋湯武暴之論々半不可尚とのみ。玉の疵なることをもつて。石我汲々たるものと。学ひ仏学乃辨をねむハ。乃至ふる小海なるとも。然を非と也ハ彼佛を不知と也うる。仏学小海なるとも。然を非と也ハ彼佛を不知と也いえん。彼仏を知ていえ。則吾学仏ずんば仏を非ずいえ。仏ひて儒学ひらくもるゝなおまされを学ることもとくりくて。理をきわめてのち仏学をとくりくて。理をきわめてのち儒仏学をとくもみ日ーる。自己ハ可也人まてく

ゞうく。我仏学せざれども。形容仏跡をみてそを是非ともいえん。仏学流々ターといえども。天台し禅土真言ハ高祖乃仏学乃くりきて禅土浄土ともくし仏学乃あらけまでもちらく。要をとらん。要とらんとくみれた。実ハまゝ仏学乃なハ死と畏るゝいよりおりとゝも。死を畏るゝよりおりとゝも。死生仏学を畏るゝ。若一死をいとゝ　向形跡いえ　云仏迹ハ形と新をおもくるゝ。仏氏剃髪人倫を棄ハ輪回をいとうそ。仏氏輪回をいとうハ。天道輪回をいとうハ。

まことの。もの一鬼物をみるもののあり。これ服病の。
ゑ後ろうるものみゆるをいふ。服をやめ。
白石叢書とろくろけまつ
ちり。真昼よ狐狸のまことをみるあるハ心病
ろ。ハ公服病ちり。服せの作ゑ心病を作ゑ物色みゆ
とおりへつまづ白石叢書ゑ狐狸あるまゑ。を信をまゑ事
あり。ゑよ出家してまねまゑ事を称ふへつまづ実ゑ乃
出家ゑり一物色ゑき狸をゑらハ。一日ゑ出家ゑ作ゑとゑり
ゑ。ゑ海へ儒ゑまて物色ゑまてハさる物をあゑとゑへ
とも。武ハ浪せのさめ。武ハ家ゑ名聞ゑふひゑまて学
方をゑるばまへ。ゑゑへ後もありとゑゑゑ

一ゑゑゑ同。ゑゑゑとゑりてよゑゑ儒ゑ実ゑゑゑむき俗儒ゑ

思ひへゑりゑり。ゑ儒のゑゑ近年禅ゑのゑあり作ゑ
ゑゑゑ。ゑゑ日ゑゑ。ゑゑやゑゑゑ成ゑゑゑ。
学ハ日ゑふおゑへ禅学ハ心学ハ禅のさゑゑけゑゑ
ゑのありいへ ゑゑゑ憲ゑゑゑまゑ。
ゑもり。唐ゑゑゑ初ハ作ゑゑゑ世ハ次第ゑ文明ゑ
ハ法ゑふおゑへ禅ゑのゑけゑゑ日本ゑ後ハゑゑ
ゑ流ゑりへ。一家ゑ易簡ゑゑゑゑゑ。一家
ゑり易簡ゑゑ立法ゑゑゑ。これゑ後ゑゑゑの後ゑ。
浄土日蓮ゑ後ハ一向乃易簡ゑおゑへひゑ成ぬ。を
ゑ文明ゑゑへ。ゑ獄相ゑ号ゑの説を作ゑゑ事う
ゑ。ゑゑ後ハゑへ。禅ふハひゑきゑ

なく。昔尚よく教くさとりて悟ることのく後生は地獄
ふくつくこれ文明のはよあくて。今乃狸ハ愚夫愚婦
のようんさを欺して妙をいい利をむさぼり。祖師の仏事
よそひもうこのようくハいよ〳〵盛よたりて。他宗ハ皆
とされつゝ一向宗の門ばかりくて人のあつ
過ぎ給ひて。今ハ天下にひろまりたる也
云ふうしてやく小成るものハ常周るもと。俄よひろま
はるものハ久なり次。民九十月よ春とまるぐるふ
まるれ。善をまとさんらまで。雪霜よりもまで。これよ
りて根をふくもれて。善悪をむとひくく考熟るりの也。予うもとさんあるハ善
れを守り善をおこなふ後世をこるるものんかそう悪信

なれとも破るなり。達摩乃仏宗世よひろまることハ
おそれ。善害をなすもの多し。そを身死てのちハ後世ひろまる
なり。異学よくしてもを徳あまねし
一心支問。傷道おこらハ仏法ハ滅ひんう　云乃を興
を人ハ君のおんぢんまよハ力をひく。物乃興廃をおよ人
うんぢ。我たおこらハ仏法をひろくめ〳〵ふ
けりきるハ仏法を興して豊なれ。そ乃事除の程
あくぢのようくたまそ乃ひとしく又ひとし
うんぢ。乱世乃そひいて頂きる多うる今ハ
法ハいまよりハよう〳〵
乃精進あを毎月精進と
云仏法をおこなハよう

法よりし有よ。ゆゑにこのゆゑに一年よりて一度のものなり。年よりて後世ハ仏法滅せよりて。精進よりて備のゆゑに果よりて後世ハ仏法滅せよりて。法ゆゑに戒ゆゑに一年よりて一度ハ。雖然毎月ごとに出よかるべしや。況ハ来ゆゑに釈乃ゆゑに毎月ごとに出よかるべしや。

といひぐちなり。況ハ来ゆゑに釈乃ゆゑに毎月ごとに出よかるべしや。況ハ来ゆゑに釈乃ゆゑに毎月ごとに出よかるべしや。

倩ゆゑの衆有へけまこゝを附ゆゑに死よりの日ハ。倩ゆゑの衆有へけまこゝを附ゆゑに死よりの日ハ。

き理ゆゑ有よ来ゆゑハ不開ゆゑにゆゑまでも参成せよりの人ハ。き理ゆゑ有よ来ゆゑハ不開ゆゑにゆゑまでも参成せよりの人ハ。

倩ゆゑ有ゆゑ一年よりて一度ハ。況ハ来ゆゑに釈乃ゆゑに毎月ごとに出よかるべしや。倩ゆゑ有ゆゑ一年よりて一度ハ。況ハ来ゆゑに釈乃ゆゑに毎月ごとに出よかるべしや。

ゆゑまでもつゝしみのあるべきうん　云ゑ日ハ後世ハ仏法滅せよりの衆ゆゑまでもつゝしみのあるべきうん　云ゑ日ハ後世ハ仏法滅せよりの衆

死しよりの時日ハ。倩ゆゑ有へけまこゝを附ゆゑに死よりの日ハ。倩ゆゑ有へけまこゝを附ゆゑに死よりの日ハ。

乃衆ハ吉礼よりの。孝ゆゑ礼よりの時ハ。倩ゆゑ有へけまこゝを附ゆゑに死よりの日ハ。倩ゆゑ有へけまこゝを附ゆゑに死よりの日ハ。

りてゆゑまでもつゝしみのあるべきうん　云ゑ日ハ後世ハ仏法滅せよりの衆ゆゑまでもつゝしみのあるべきうん　云ゑ日ハ後世ハ仏法滅せよりの衆

をも称明ゆゑる乃理よりの。称ゑもゝくゑれをけりて事ゆゑ有へけまこゝを附ゆゑに死よりの日ハ。倩ゆゑ有へけまこゝを附ゆゑに死よりの日ハ。

あまへハ。ゆゑ一ハ潔斎して参るゆゑハ。衣袂と長日とこゑ也。後世ゆゑ附ゆゑまでもつゝしみのあるべきうん　云ゑ日ハ後世ハ仏法滅せよりの衆ゆゑまでもつゝしみのあるべきうん　云ゑ日ハ後世ハ仏法滅せよりの衆

て不参ゑて潔斎ハを以。衣袂ゑ長日ゑ而ゆゑ有へけまこゝを附ゆゑに死よりの日ハ。倩ゆゑ有へけまこゝを附ゆゑに死よりの日ハ。

或ハ表礼ゑの。或ハ吉礼ゑの。或ハ吉礼ゑの。或ハ吉礼ゑの。或ハ吉礼ゑの。或ハ吉礼ゑの。或ハ吉礼ゑの。或ハ吉礼ゑの。

行礼ゑ而ゑ参ゑ。ゆゑ一ハ潔斎して参るゆゑハ。衣袂と長日とこゑ也。後世ゆゑ附ゆゑまでもつゝしみのあるべきうん　云ゑ日ハ後世ハ仏法滅せよりの衆ゆゑまでもつゝしみのあるべきうん　云ゑ日ハ後世ハ仏法滅せよりの衆

救ゆゑるゝ。年よりて一度の長日ゑ而ゆゑ有へけまこゝを附ゆゑに死よりの日ハ。倩ゆゑ有へけまこゝを附ゆゑに死よりの日ハ。

の衆ゑ。毎月長日ゑ而ゆゑ有へけまこゝを附ゆゑに死よりの日ハ。倩ゆゑ有へけまこゝを附ゆゑに死よりの日ハ。

乃をけりてをゝ礼ゆゑまでもつゝしみのあるべきうん　云ゑ日ハ後世ハ仏法滅せよりの衆ゆゑまでもつゝしみのあるべきうん　云ゑ日ハ後世ハ仏法滅せよりの衆

仏ゑるゆゑ礼をゆゑゝし。死ゑる衆ゆゑまでもつゝしみのあるべきうん　云ゑ日ハ後世ハ仏法滅せよりの衆ゆゑまでもつゝしみのあるべきうん　云ゑ日ハ後世ハ仏法滅せよりの衆

ゑり。上古ハ年ゆゑ一度の長日乃衆をゆゑゝしみのあるべきうん　云ゑ日ハ後世ハ仏法滅せよりの衆ゆゑまでもつゝしみのあるべきうん　云ゑ日ハ後世ハ仏法滅せよりの衆

三年の喪ゑ中ゑゑ。ゆゑ礼ゑて喪ゑ除ゑゝハをゑゝ衣乃

朴乃ち如し。忌日の祭ハ七七日の忌ハ一年に一度乃月日ハ釈の死せる日なるを以ひ出ゝ。後世孝心ある人ハ猶更ハ忘れ難く。我ら一ケ年ハ十二度ハ十二月ハ三十六日ハ百八日ハ千八日ハ一日ハ一時ハ一刻ハ一念ハ一心ハ一分ハ一厘ハ一毛ハ一塵ハ一埃ハ一瞬ハ一息ハ一刹那ハ一弾指

一心友問云佛者ハ輪廻といひ儒道ハいとひ目の前ハ毛
虫ハ蝶と成て飛ハれんぜまれかはるといふも皆ふんら
着そこ心也我友禅者よ往て云坐禅とるタハ何のくあそ即ち
即佛位ハ善の有。惡ハ皆消滅ハ云ハ。惡ハ皆消滅ハ云ハ。惡ハ皆消滅ハ云ハ

乃変化の理を考ふべし。まづ物は空より氣化。形化。卵化。変化あり。氣化とは父母なくして氣中より生ずるの也。新沈の魚ハ人さゝれたる魚の出あるハ氣化なり。蚤ハ父母ありて生ずるも和ハ父母なくて生ずるなり。蚊ハ父母ありて氣化なり。蚤ハ父母なくて氣化な

をまつ。神をまつりて仏法の邪あるよりも也。陰陽師の悪術よりも也。天台ハいく。神経よりも。書中乃至の見法を。仏ときつ。又ときふも仏ちかふ。其餘ハ諸よりも。秘ハいく。我うふ仏ふ仏ふふく。悟をひく。動ともす。我うふ友のふ人ふと。ふとしく。ハ明ふ。ふのふてふ。ふ天ふ云秘ふた。ひく。ハいくもふを有つめ。今ハ人民の賊也。雨湯のふ秘ふれ。ふ薬(ケツ)寸(チ)ふ悪ハふをいうるひと。糟糠瓦礫ハ事れ害(カイ)ふ。今の仏者ハ。天下共害ふをうる基し。米囲屋のふ。ハ倫ふ。ひく。ふ乃ふ。ふ時ふよハ。大風吹ふ。秘ふ。其ハいをふ秘

多くて味を得ると云うがごとくせよと也。いにしへ弾者有
と云くして不言
一 佛者同く云。耕也餒在其中学也禄在其中のごとくかくいへ
きや 若云義乃取やうにことばかへて云ことなれども義と行て食を求ること
やうなることも也。天命ということのあり。耕は食をもとめるやうなもの
うへそうして死する者あり。学は道徳を求んとするやうなれども。自
然に天禄ありてそうへをまねく。利はおのづからきたるのよあるとも
もつぱらそれをのぞむの言ふに云ち欲をおさめ。行をととのへて法力あ
佛道をもとむるやうなもの也。決してそうではない。
一 心友同行とう君子佛といふ。小人は佛といふ。若く

云。佛といふは善者の称也。乃ち釈迦牟尼如来五濁悪人佛の
かれた佛。いろいろ名目あるは小称なり。もとより一つのものを。少くと
もそれぞれ名をつけて。学問と名利のごとくあるがごとくふたつのものと若よと云ふ小人の佛と云ふ称
別よ在く。なれどもりやうね者をもの佛と云也 同ごとくは今
時佛者ごとく。文字など長て。禄を受る者は非なる故 曰ふ
あるは非也。かき者は非かもしれず。天性文才に長じ。文学
よりて。禄を受るは非。天職を全ふするを以て佛
とも云。其実は一もの。このたよりやうに文才のごとく有て儒と好き儒云ハ。
ふりして文筆共用をもとめるが。仏法わるき儒者ハのかつごとき佛
天禄をも受ふ。かごとくハ小人乃儒よ似たれた。孟子も天命
よろこぶ者よ小人の儒よあるをもとと云ハ実ハ利のために

一。墨と八実と云ふ。三綱五常の道と八信をして。此世間の善乃至きるとハ信をして。地獄極楽とハ行ひもつともと多し。異端乃ものハ言とハくらべ行をハくし。もつともと多くしてまことの道ハ行ハれ難し。

一。同云戦ハ人を殺し。財宝を奪ひとるなり。云ふ又つよき大将の悪をあらそひて。俗を脅して人を殺すの害多し。

一。戦ハ国を合するとハいへども。天子よりハ甚を人も亡び。其方も治まり。統よく天下を取るハ合戦の後更よハ

ざるをとくと云ふ。言をそくとふくむ。言をそくとふくむ。己ら非をかくすの儒をまねくハ。世を愚にするの也。同理なり。実学をおこして人を教へ。ろうよりて一生をとをることこれを非とハいへんとすれども人を活るこれを是とハいへんとすれども。異端邪説ハ人を害ふ。

一。戦ハ国を合するとハいへども。天子よりハ甚を人も亡び。其方も治まり。統よく天下を取るハ合戦の後更よハ不叶。実見をもて理をおこなハざるハ。武士の家も生れざるハ。農工商にも生れざる者と。人ゐてをるとハいへども。ことごとく王をいて。異見と当ふ。己ら文才をふるひ。文才あるもの産業をそこなふ。言語切実ならざる。文才あるもの産業をそこなふ。言語切実ならざるハ。文才あるもの産業をそこなふ。言語切実ならざるハ。文才あるもの産業をそこなふ。言語切実ならざるハ

よろしからず。されども世そ大やうなる。寛にはうきん
いうそうこのもの也。唐日本そのほか古今のまあいのそうちう。
今の軍者よハ。將乃器なく。徒に勞員ゝ利を急き機務
する者多し。時代無事なるゆへ也。戰國よりハ。
大方ハ。もと紀軍法を知ある人。ハ。ハ。ハ

をぢや今ハ此人こと和ら軍法者ぬ人ぐ給ぬるの有べきや。信ち事成ハ板東の名將ど。毛利元就ぢ。支將ともなるをぢ。大勇ありて寛仁ぢ。軍法ハ義経正成乃書屬あり。千紘大ぢ。て近代乃及ぬまあらぢ。なよ人ぢ。信長秀吉ぢ運つぢ元就ぐ。ぐ死去ぢ同成ハ庚の孫高孔明流。源義経。楠正成流ぬぐ。ぐ。ハ。ぐ孔明流ぐ。立ぢ軍法ハなし。名とかうさ源ぐ。也。ぢ流あぐぐそれ。ぐ。義経流正成流とい。ハ。ぐ名將乃上ぬとせーぢ給とい。ぐ。今の人ぢ給よハ。ぐなぬ。ぐ。大成の本とぢる人ー。者ぢ給学ハ。軍法とハ。ぐ。ぐ。ぐ

次へきり欲うきる也　同社務て人を教ゆる法ゆく業
をなら罪をうるハ今のをへくの切よ十石俵をうこくさ
うね新田畠をたくさと者ろまよ次ゆく罪をうるハ何そ
や云ふ又不仁乃者を
逢乃根をまもも也。
このおり清郷乃害よ
ハ牛馬をうよくろ
まくこれくの害よ次
のそれ軍者よ次て
き罪人なりくいつこ。
うろ付きハ罪をへきや
一心友同治国平天下れ修団ありや　云孟子云諸侯

寶三土地人民政事。寶珠玉者珠必及身傳云寶得其寶
者安寶失其寶者危くいつ後世君臣おゐてかうさ
時代有ともくも道を不学
ゐる人も。徒書のよれ
ると不知道の行ゆ。人民の安居ゐる事うく其害を
うくても。大法をうる者ハ行ゆあさゐ細ゆ害用次去
なりそも。親矩縄墨よ
らう。あさハさゐうこと。学
かけをハ行ゆ不能。拙工ゆ縄墨をあてゐるうこと。其墨
わうこと法をゐるも。人情時変ゆ達せされハひろくゐて次
るゆ不能ゆうこと。そして不通ゆなり。其害あり大法
をもう。人情ゆ変ゆ達しても。時を得されハ行ゆあうを。

鎧甚あらんとハ。時と待よハあらんを。翁恵吉しハ人ハ
いて来のハもうもやいハ世の人政事の堂るを不知
まやは度を出そうとくもくもうこ乃爰一を
うまそハ岡甚岡よあらん。古北あうても人民おけまハ。語ことを
不解。人民皆ハ。古北人民あ
つそも。政事よあうさしハ。長久ハ政るハよけまハ宝と
なり。よあうさし害ハあうん君ハ大臣しの名あり。位人
きの氏第一なり 向後世君を。考人よをくしるも
わの文字あ考をめて及
ちんしめさんうめ。方ハ撰用と四一世乃氏治まて
をもきうせ。ハやしき考の。ハ道しるなハ。そハらくき
うハ。方乃物化せさをく

道よあうさハ行をや そひうハ学者餘多あうと
も。百まと仕奉ハ。考別よめくあり。一致ハあるへき者
とハまくきうを君を宵人ハ。和重を敬ふ。庶の仕乃ひ
めくき説ひと知て。用ひ給ひ
なれハぞよあうさう。和を思ひ給ひ
に給ふまるをつきまハそ
り人ハ。百ハ君を和ふ放ふ。下ハ百ハ之勢
いおまれハ給ふめうハを。先ハ
情を和へきてあれ。肝要の
て道徳ハ志ある人の。下に百ハ政のなをを弘人
情ハ不和そのうち。毎くく民用をそうさう。此士をあけ
て。郡代郡を。代官をハ百ハ和者ハ。百ハ道ハ

志を以てのハ民間小そこらの民と治る事ハ。ふつゝ
者なり。せるれ共法をおこなひもがれ悪ハあるとも大そ
言よハあ〳〵さるまなり。つゝき者の。人道をふ〳〵人情
いふ〳〵ものあり。平井の老ハ我得ふ〳〵ハ
そ〳〵る人ぶあるとくまのそ〳〵ハ害をうる
交〳〵ぶるいハ〳〵まり。老の
志の通をもつてハ行事もあるとれ深愛ふく
非とあり吾あれるも。おく〳〵
一心友同小那多我た。公事訴訟をあいうきく行ふ愛の
仏教義及び公国郡道を考ふるふ〳〵。故に士をむき民
ふかる。古の罪人ハ。今れ言人を。穿鑿（センサク）しりふハ
妄事をもるふハまれをもつてしぬのは民間人士のふるハ〳〵い

かしき悪人をそ天をも容ぬあ〳〵しきあく
多くて天よ後の勢をもつ下れ勢とふ後ふ久くハ善人
不善人よりさる〳〵神〳〵さ〳〵
善きハまれて非道の者を
訓〳〵とりとつひきくあ〳〵
の者。これふ悪ふるあ〳〵ハ。不悔改〳〵罪ふ非道
〳〵悪ハきう〳〵出ふく。悪人
もしこれすれ者〳〵今の
悪人の罪をまく〳〵
ハ。た枝よ大勢うさねく〳〵。
く〳〵ハ実ねく〳〵見ゆるを。古人ハ死罪よも軽き法
古人ハ死後のはを立〳〵ハ罪をとうろ〳〵して。悪の数を割む

秘そのさわふ書ハあるうち凡ハ誰学
をおやまんてをおそれくも出ることありあり　同義の書よ
て志のところ。それより同学し
志ふ出ものさハ心書ふ使ふ
ひへりても。志をおことを人を
ひれくれ給う天の此民を生ふる。先覚をして
後学ときて作しる理を
と云ふべき言ハ出ふハ天のあまふ所あり。そうほふ其
言成就し。其書をうて教子の英才をひうさ
ふハ天乃羅人ちう。毎ふ一国乃人民を幸ふへき。
天禄をおくひうそのことをさうあ教乃飢寒を
とうとうところ。学ふ教村書も出深ふみて。さ

乃ふ婦ふ死ハまうき事ふ
無学ふ手知の者ハ。ふうりて
ふもあり。世間ふ書ふ
帰しおう。第一ふハ。ハ乃ふ
世間の唱へあやまりをもひ
とうとうれも害をおうふ
書ふ無ふ不久ふれ者の。
乃無ふハ妙しふ文明乃
文ふ豊ふへし。うふ書れ
十年ハ間の脚ふうちハ。今と
ハ関ふやりふし。無ふよれ
ふ友同ひうよう。借残公度きうとうふあう。人乃

物をうるそかくさとれる好ミし捨ろそ。神ちかつてまゝきのんそうるものあんそうるの。ち徳の弓魚是非ハをゆおよ。沙法とくき事をしれや　云理屈をいつてち徳のかもてもも。世の勢をいつものハもつとれ。ひそより信義公事きく治ハさるハ。情勢ふあるおあり。天下ハ天下共天下ちゝいつて全役果報ハ天ちより天下れ人のあよまもちりのあれく。一人乃私ハきにわそ。まれ出ちる附ハ夫婦たゝ一衣を着ん。一物をりれ。全銀ハ貪賊富ち乃命にりてそちらく来仕とぜくし孫よ他家るゆおさりとそ人。明日ハ人のおちるれち天下国郡ま又ちり貪ちるものハ。富分者よかち神くとくきゝこゝろくかまた。なより不足ちるふちりてか

つゝる放ち。其元利を出ハいよく不足ってそ。人とくあり
かさきゝものあり。又奢て用ゝられハ。うゝいよく奢て借物
おくなりてか人さ治者あり。又不えりなくかへを海きゝ
とそ不えりなくかへを海きゝ。又あ重二宇ふく神ちの乃
乃ふく海一つそもうゝ。来いわきふおちものるまゝ。
こと罪とそゝゝたハ。理非ハさる者まてるのさいれゝ
ちる人一若無たふ吟味あく。きうさるハまゝされて人よか
ちりのハ利をうるくきゝあるよかもちるれゝ。甚財不仁不
義みてあつまれハ。散とくき附長到まして利ふふちりて
先ふりのあり。又さ打ち不義乃あ川めちく孫先天物ち久
一くまゝうに世一とうゝ乃ふく損とくきうくとちあり。これ財用の流行ちれ

されど甚こ名利害よりさきして備物をさゝげ。若不得已事の勢によりてかまたゞ必となすべきをもとめ。小人を治るのみをいふ所要なり

一学友問。達磨より初く禅家妙奇物をきくにおよばず。元祖乃釈迦如来妙圓をうまたゞ。元祖乃釈迦如来妙圓をうまたゞ。元祖乃釈迦如来妙圓をうまたゞ

仏利ひろし。都邑と中國の事。我邦の上世と漢土ハ。佛法をそしんとやふんハ出家（シュッケ）達磨（ダルマ）も中國ゟ。直指人心見性成佛乃旨と教まて。時ゟ。ゟ。季末神道ゟ。我仏法ゟ。同一仏法ゟ。日蓮ハ他ふと。ゟ。我宗ハ。妙法ゟ。言ゟ。利ゟ。ゟ。ゟ。

て。武家の代となりて後ハ。人民よ教るの道おこなハれ。そも〳〵軍國をおさむるをおこなひとし。教ハ備者よりもまさるもの。佛教の初ハ人乃至王道乃至ハ人の名と已て。名をおとすを恥るの心ありて。歌仏儒をかねて。歌仏儒をやめて。善行をこゝろざすと。小補有小補より近来

よ仁義を云んと欲をも放よく人のうらやむ
ちうと云人の仕せうハ人れうまいあれくまゝあしこう
我仕よとしく損なし。ちうひを以く仕をハ。ちうハうる
ハ結句あんの。君よハ事そうして仕るハ。ちうハうる
ハさしとも一言の約をも守るハ自歎ちう則天理よりも
くるう天理よりもむく慶よハ則神罰あり。いんくわ(因果)
鬼神ハ福善禍淫(くわいん)なり。善ハ仁義礼智信より大なるハ
なし。悪ハ五常をそむくよりも先なるハなし
一心反問程子云。老子曰非以明民将以愚之其亦自賊其
性矣く佛氏も亦云。智恵を教せく。利那も教せされ
ば。地獄よりく失乃ち云。浄土日蓮一向の宗門其言ハ
皆ちうとくなれ大悪知る佛意を会せしめく明慮ケ記也

老佛よく相ふ(符)合ろ　云程よハ考その主意を察ちる
かいなあ(ら)ん。時のむ去乃費えようてハなるまじ。
むよ民を愚ふまして。頑妄(かんまう)ちうそんくるよ。
機巧(きかう)の知。利害乃謀(はかりごと)ハ万悪乃源なり。
を。機巧謀計。利害乃知をふさうんく
と。悪ふりとそんて。誠の道よ。ハ(は)ぐれハ(は)ぴ保をふさうんく
と。悪ふりとそんて。誠の道よ。ハ(は)ぐれハ(は)ぴ保をふさうんく
遂行(すいかう)ハ仏ちうよ。世乃ちうを。人をして徳よ入(い)ら
るゝ不能(あたハず)して。才を長をしてを。徳よ入(い)らる

ゆをうち海て禎愚ことを。故よつて人〻愚ハ直るう。今の愚ハ何のく

一心支向。聖人おこう張りて。井田復とくまや　云聖へれこを

張りて。大道復をくきのく。井田ありて。大道復をくきのく。井田ありて。大道復をくきのく。井田あり

ゝて。貢法をたゝしく。一ハ貢法ありき故よ長名殘ゝて。今も年貢とゝのふることを。一ハ農兵なて。士民ともに。軍役民間よりいだすとき。故よ貢物十一也ゝも。民間不足なし。井地ハ八家を一組とゝ。死生相ゆひ疾病相助ゆ。患難相救ゝて。一人もそこなはれざるやうにまもり。一人もそこなはれざるやうにまもり。八家より一人ゝゝ兵を出すこと。四用軍用備ゝるごとく。文武軍兵兩輪ゝゝ。農のいとまある時よ。孝悌忠信の教ありて。五倫和睦しづかに。風俗よろしく。禮樂ゝ馬のおそひゝゝ。風俗よろしく。寒暑をおのゝゝ分ゝやすく。ありて。山野よりて。川沢よりするハ。農の害とならず。武事ゝ銀錬せしめんとなり。故よ軍士ハ。農兵よりたゝ

なり。農兵ともれしをの時ゝ十一乃貢法ゝ行ゝなり。治世ハ士ゆるやかに。民困窮をず。軍用よハ士民相和して。要法ゝ戒めをして。賢主系ありたりくハ。大今のごとく。賢君良相ありても。俄よハかんとうにハ。仁君相継ぎ。ゝゝ多き業をはじめ続をゝゝ。治世永久なるべし。

一舊友小笠原玄方我國をまかりれハ。行の用ふしをゝゝ。武士ゆ名をおもひ。知行をわたしハ。玄方達をゝゝ。病友久をゝゝて云。何とゝいふ言ぞや。玄方家門の考ゝあるゝゝ。民ゝ不通ゝ。軍用達をゝゝ。国きるゝとゝ。玄方云。事ありハ。ゝゝ人ゝゝて二千人あり。百姓とゝり出して。ゝゝ人乃至百人あると。

大坂陣。徳川家陣のやうなる事あらば小屋場までも供をまうすべし。二陣八ツ下一同の供までそ。歟八きそ〳〵一城のこるまでハ。あれ百姓多共を人比丘尼をあをうつうつと新ゐるやうなる事。その家のまれ乱をまうす。民家乃中ゟ乱出乃ごとくハ。きう三十人の去。我場へ一人もそろうまへう比。節用あり。代をかさねて仕まつるもの。拳にて剛あらバ。一人も供をえきうが。よハあり八。小屋までも送去あるべし。みくるしくハ仮かくしくるものなく小屋をくう。馬をうまのるくハ。勇気一つを。紙つまくすゝめあるべし。るゝ時ハ。一人武去ともそろうまへう比。そこを損をるゝともそろうまへう比。そこを死をつくさゞる。歩侍一人武去乃ごとくハ。幼稚盗よあるべきや。歩侍

ハ。常に仮事をうるくして分を忘よう。夫方を俄よかうそう。一人武去者よりあり。彼歩侍のえうきもの。へうに。那者をとゞめるべきや。ハそれくれ。歩侍乃仮事名とねもひおるべきや。そのくまへう。人多くハ。人多きを仮事とそ。人多くハ。仮事なるべきや。あまたをれるごとく。君のえ仮稼ハ。不忠乃至なり。

一　友云。今の世ハ武士の情ハ民よ不仁をるべし。其通をおうそ。たるべきや。基々を不得ごとそ。そ仮く民よ情をまうべきハ。大ごとそうるというて。急悪よまうべく。百姓のごとく免そうべきや。家中よハかごとくまうべ

あ〳〵百姓の〳〵。国ふ立〳〵とうの。銭鐚(キン)三年ふく。民ようふくるふあり。もうをのそも五男女とちく。乞係ようふうふうふ。たう〳〵〳〵〳〵

方ケ丸くものハ。元禽とものり。そを丸く村里ゐくさきり居
といふくも。ゑ年ゐハ餓死をまぬうまれ居るきくものハ。
有ゑ丸ゐ名別をもちゐ丸ゐ。みせめ糞尿（スキ）。本馬ケくものせめ
とあとこ丸しなよりて。病つまて。死し。或ハ病者よりて
用にさくうれゐまもしいひむすあれハ。何ものくも
と。ゑ年ゐく百姓乃迷惑ゐる時よハ。紀国北牟婁
姿ゑと。下亜て覚得ゐくうて。宿人ハいつもく方代ゐくう
くゐるくものあり村里ゐ。はけくゐくきやうくして先と
さくし。宿人を仮百姓とつまくとゐ。先さくうてまもと
く宿有ゐくう。山宿有乃民。ゑ十家百家ゐ中に。一二家有
をゐく。百姓ゐやうゐく。者とゐゐぬへ。ゑ年ゐりハ
（クキ、ワラ）藁をくうて。本の妻ケ丸ゐ。何その役者幸

いく。酒者をおゐうあり。大坂おくうあれ。一村より一二人
つ出くも。城下の町そこ。ゑ年ゐハ多きくなりぬくをを
みくも。百姓ハきくゐ人ゐうくうまもそも。ゐくうやうふいふて。彼も人ゐうくうやう乃
もちゐいくりくまて労苦して武士とや
しくも考あれぬ。少し酒者ゐくもゐるをそハ。悦きゐ
ケ丸ゐ。武士乃ムくうて。ゐくハ。幼少より足ゐひきて
ムをさをくそくうみハくゐ。ものくこそ。
きゆへケ丸ゐ。かけうきまもの。ハ幸ケくや
一学反元。世の如くいふものハ。元一国の中。何乃
事ふしきくうき者。訳の立て紀乃国人をいふ。

百姓をもへらす侭よ侭侵人のそこなふ者のそこなふ者よ。
事ふるきこころハせめくるしめ国家のさわ害
にたるものゝ紛をうりて。猾奏（クワイタイ）たるまゝあり陸ふるきき
士あるといへども民間よりもとめ出すこともの
かし。窄人るまゝハまゝてかくらるるもの〈女
くかりしくいしかをする成てハ用ふるこころまふハ脱卖も
あさかるものあり同一様よりハ脱卖も
有くべからるまゝ一国二国のこゝろ方かし
云者よハ天命をさふ。我よりハ脱卖もしかしいと。
者るる人乃不徳ゆゑ脱卖あまるるものゝ
くしかまをれ。事ふるきこころ釈尊の訪み
てやかまを居とハ。包荒乃仁をおくり。甚侵人の

くく家人百姓をうれしむるきハ。教ふけまハあり。出家
う害よりるものハ退くべし。長人あるハ拳国少人
一猶友云彼小人をもおしむるきハ。小人をもおしむるこころ
まをおくるるあをくまをくまをくまをくまを
ものあをくまをくまをくまを。気味よりて。
ものあをくまをくまを。彼ら彼をもくまを虚説を
ものあをくまをくまを甚悪ハあくまをくまを
ものあをくまをくまを人罪せさるハ天罰をもくまを
ものあをくまをくまをくまをくまをくまを。
ものあをくまをくまを廃もるハ。小人乃者あるべくまを
ものあをくまをくまを甚そくまんハ。彼と同きものあるべくまを。我
ものあをくまをくまを敗軍もくまを。あるもの北

さんハ君ゑの軍にわくれ。人を多く殺しうらさく。軍ゐ利あるふのくれ。雪武知賊の勢をうく。敵をこらしめき給をし。其勢よりて。敵ども敗北ゐ。敵といふとも力おとろへくぐひとをうちわさいはる者ハ。助ーこうもしやくしやくしやく

ゑんさうにて云へるごとく。朱子
一学支欲きて云。藤樹の学ハ陽明流乃学ときゝ人多しかるに
いそがはしくうけうけとみなし。ゑんさうの
云ごとくにて称して松百人とあげしる者
あるべし。又伝えし名の間よ行くべし。藤樹乃学流と云ハ。争遅
かるべきまでうけうけとも云義の寛法。何乃
ところあるべし。生れ乃学ハ。教学ハ小国寡と其放
とこれあるにて知人べし。これ何の罪ゝあるや。石斧ゑ
孝ゑんさうの不忠なるものゝごとくいへり。
ゑんさうの屋敷よりて釈ハ子といまゐ。君ハ君を
ゑんさうの屋敷よりて学ハ学をとるべきや。釈き同志のごく
方とかをへて。二十人よりハ云へ

皆を第一とせり。ちうるうりは是をハ凶荒の私事とう〻多
くつゞまれ同しく通人〻のく寄合〻飲食衣服奢
侈等ハ。年の内の活計をもつゞまやかに。己が分を
よく守り。西年に窮民困苦して困窮し流浪
人年〻に多し。人を救ひ。稼業を施し。民うり
飢るうれひなくして。一粒のたくわへをうり免
合するをもつて。もつとき事とせり。風へきをもつて
と。義公かう仰

一禮ハ治國平天下ハ。礼おこなはれざるをもつて
よつてなり。後世乃人。礼を義用をして。実儀乃多
きをもつて。礼のものとつまりやうくに心得
るものあるハ。礼譲日〻におこなはれざるをもつて
なり。

妖怪（ヨウクワイ）

ちうるうりは。天下ハ。天より出るおれ天をた
ふとまつる。人うり出るおれ天をうやまう。一分己を利
するハ。一分人を損ずるの悪ひとしからず。

集義外書巻九終

脫論七

一心友同帝堯許由は天下を治めんと志ざす。許由は狂なれど其治道大筒なるべし。教の要をとらせよ。桑をとれ。狂者略なるべし。聖人の稽儀政刑を。拾撫をなすべし。聖人の聖をなすことの如くなるべし。絶ゆる迄うんぬん狂を要とせよ。天下を治めんと思ふ如くなるべし。雅樂政教を聖人の如くとそなへ稽儀法度を聖人の糟粕なりとうけとるべし。誠あることなし。誠なし。文法令八次第小おこりは易し。毎に立かへ誠なり狂者八情八まくまゝ行法よりこれを質素にうつしかさうしれぐ無欲よりして求むべし。賤義し民集つし。金銀珠玉

常あるべきよう　若云我寿命
ようくの形。仏ちいの驕奢無
今の盤陀　仏法をいびのみ相
。三分一よりも半百ぺ。よう
法ともち。ありて云ようそ。
聞くことあれば　奏と天よう
ようとそ。その盤陀よりと。御法
ゆる事への如く。
一
学の文云。儒ども恭。千人ら九百九十九人まで
出家一仏を。云。実ら人の協を。俗もち
うく成ぐ。なかまどいそ
ぐるとふうよかって。出家

法ようく右利支丹乃少女
をこなくる事おのの門
事ふらひて。信人をえ
いれ。法人貪ふそくる。
その小近うく。其間乱
ふ人々十分一をのこ
学ひろく成くくの眼
んとう。史消ふんらて。
云んうくの春ひ百年の
辛なるく。ふもなく。
ふもと。仏法もそえなん
しぐ乃故。

ようもの。山沢等まで。人物の情と。勢とを尽せば。易の易たる所以なくしてはあるまじく。長久なくしては。道理あるまじく。傷法ようでは。不仁なる事とこそあり。とても。易簡なる処のみとて。日々の水土の相違さえ。この故よう。弥々多くなるまじく。万物の育ようも。迂遠なる仏法のいのちなき。易簡と実ひ行われべくもあるまじく。天下も不仁なるものとこそなるべく。心仏をも不仁なるものとこそなるべく。易う道の仁政。易簡なるべきようもなく。治まるべき道理もなく。聖賢の道も行われべくもあるまじく。西戎の異法ひ行われべくもあるまじく。況や。吾云易簡乃吾とを以て求むれば。学ぶ事なのようにかかるべくして。学ぶ事なくして学ぶべくもあるまじく。皆易簡の吾とは遠くて不及

道といえども。約なれば。約なるとをもれば。荘老の乱也。実簡也とい
ひぬべくもあるまじくを。何をもって仏をもって。尊ぶべきや。彼の物受をれば。路よ
ぬ日々の水土。風の礼の如くなる。文備うるべくもなく。約なる二字の道理必然也。周の礼法ふくる。
荘の道とをつくさざる。大勢ふなくてもあるべし。天下小国多
後世ふ約なるものをもつくらざる也。実ふ荘老也。何ともあ
らん。上天の時よのつうつ下ふまで。云時ふ応じて。ふ
とうとうふるとをもしらず。ふ
ぬ。ふ
ふ
ふ

かの流ることなくして。易簡なる事を用ゐ知やすくおこなひやすき大道を行ん事なること。その学者を儒道と異に起すべからざるなり。仏者乃不仁と。儒者の理学とを退るとく。助ろの弊となる神通となみするなん。一切の中よ。仏法も水もふるゆゑ処あり。濁法も水去るべからざるなり。仏法をきらひおこなふべからざるなり。儒乃をおこなふべからざるなり。仏法もあえんた。強よ吉利支丹乃あるうえんれわるさう。強い孫道をおくくうらやふらく。高き玉となりと。禁中をなくなりへ天地やふまでもなおるべん。後世と儒道をうらくつよ元也。吉利支丹を後生ぜんをそを。仏者よりも上手也と云ふを。仏道ともいまうれる。仏道の力をへらく。強きなくて

今の儒法ハ。天下国家乃為となるへくもそれハ孫子の流と成べく。吉利支丹のあるべき乃遠慮をわるべし。これふるべくいう。孫武つまひくわんして。化高と助る乃大道ゆへ儒者ともうて法をせんをれと。民乃為とうらひさ。無事とおくなうて。孫子うれハ。人数生ぜんと

一人民大に富こと。なすべき事ありて。故に驕奢におごれる
情歌あること。無用の物多く製作ること。いと厄なりと。
歌と物せさのつの。其時こそ此文法令
まで及ざるを一事にのみ。政令道を失
ひて。人心正しからざるを。士民ともに貴賤分をこえ多く奢
をほしくして。厄なり。世故に多く欲なきこと。情うすく
なりぬれば。其風こそ。浅薄ふうぞく。及や他の出よりて
や。近年ら市井金石ごとく。姓ようてくなりて人を病
氣無氣もれと也。其よりて
むりて大に上世の活と移らんや。とり学者勉強て

いと厄のこと。武士の貧りて朝夕のいとまなきを
のこと。其の禄とりつくる私事をとる
これ。氣力のまりあることなく。
みせしめ。おこそ厄なる者もくなりて士
やしのつ。衆のたよりとなるべきこと也。五倫の五典十義の
当なり。一文不通の人こと。此の実を学者の務
うのこと。天ようこの処なり。
助そうの也。時処位てこと。
此乃為よ。道を生民乃為ふべし。
と用く。道とりんこよもつくこと。時周乃礼
処のこと。其の上ふ高こと。自己乃氣質の礼のわる
名根ゆくして登れと求ん。なと者をあり。

情乃うちさき事ハ天下教百業の智なれい人とそろ事
なり。其実と見れいつとしぐさんよりあさう若あるとかえやは
仏多けれなると処なきくんなとひてとそ。もれてと世格法乃流
をまてと世ふ為由る事あるいかを受とられと。世中ふまふ
わくうくんなる各気質乃近くさ処よりとしくらの也て
とわさよ情乃こつさ者ハ日蓮宗となり。高潘天乱なる
老ハ緑宗くかりくうおくと。その禁学格法をなる称
くわくうくさ流なくく。日蓮宗乃世よわるてくく。一流く
流くあんのみ流仏者とまくしと甚しくとをを却て
仏者とまつさおりり。仏着ハ戒秩乃実備わくくと日なれ
水ふ特前よる教の処あり。朱学ハ理とつま事ハよくくと
水ふふ意せぬ事多し。甚上との禁学ま。耶正賢乃法

用ゐくんくを心乃うし情ハ小人と同しくさ者多し。仏の生
死ふ衆ハかるふ近しそ乃仏者ハ又きてうんのうち
ひさせりあしくしくやまばうふ書ふてを演ゐちハまの実よ仏道
ふ用ゐうまんハまれなるとをろうの文章もくいくくなり
ねくハひろうろうきん　云これを儒者乃ちうひろ
発さ世うる也。開乃代の富もなる附乃れともも来く。
後世乃貧ふ困窮の民ふくうく多事乃時ふ法ふて
事ふげくんをてうちふなくく光。上世の気力盛なり
人のなくうる事と。ほせのおとろくうちふふりしま緩
ろうふ。開乃礼法よくうるし光乃処よ。仏法後つくく衰衆古
ふ易ゐうくく賊用とハのいやうく事かくくう労せん。故り

寒くは信せさる者にて。佛法
法いふ事元我国に
大夫士なるべき人を。世ふひろめられて。先能なく儒道を
ま内外わかち。外ふくの学者をみつくも内外なきことわ
たるべく。能わる士を心労し。気つまり。鬱そくして。
く病をなしまをわすれ。
の憂なり。この故ま高さ人をこそ仏道ま入れまへ。
外むきの事ふかりぬるま。
のおとるべくと察し。人気
和。財用ま不足ふけく。
ま右の質素礼儀とくさ
礼通ふまのくひ物べん。

ふく情をおのく職用たつとめる時ふ及ふく。後のまみを
て礼とおこさむ。すべ
とべらん。有徳ふおくすべ
つまを大益の為ふ仁義
ぬまを由ふくまをなべん。実
おくるまをすべるまと不知。何
おべらん

一儒者云。家ま治儒ふく。
為べくふ。道を行ふ
門ふ入ふ物ふ
ふべく。元性名利の欲
べ。まふ物ふ仕べ。

今よりのち、くうやまいれあるを收く。膳と出ー外よ格法
と約束をもあるも。氣根つよくて、人のせぬ事とすると自得
て。己うけうの処と約束をもあるも。富有みくして氣力
つよけれども。名と求むくの心をあるも。紙に記すまでもなくて。
人のかくるともかくさまでむつかしくも。逆者就
もの。名をもあるも。お客の灑掃應對進退(シンタイ)を初くよりよ
せもの名をもあるも。そのくせ人の氣根つよくて大事のうくへ天下
のなくてもの。ばかりなるもそれぞれ
後世へ十ら一をもうこさうしと自得うくへ。ゆをなくへぬ
事とおもうへ。ぜんとすきへたくもとして痛んこと
なれど。或い成人よまくうひて。こうくへ通学ふこうひとりぬ
三年の喪とおくへなくいくへ服と自得て。

富士山まうてり百日行ひてくへ。喪のていをせめて
も喪をおとしもる者のやうをみをもあくへたう小心とつこ
なくへ。死内外わまことをうかくて喪とつくへなくへ
り虛名とうもりぬ。或い幼かの時うえ学ひうおよ親
に別まくへ。今なくへ喪よ地くへ。人よせしる者をおも。
つうくへうみてくへくへなくへ。人もものれくへ。能なく喪よ
居くへ。たくへくへ死するをのと。大くへ俗多れとくへ。亦不
と自得てなくへくへ。過くへ後こりくへうもあまへ。其ご失な私
者多ー。又世俗よ心かくへ新会よやんくへくへ。たりくへ
そくへ自得くへ不叶けうこと。或い己う賀礼迎くへ
処くへも。外よ作くへめくへる事をほり学ぶ裏坊くへやまくへの事
律儀なるの作くへ。

いねんれい。寿物とらひまうこと
人と二三人をうそれうる母えな
ほとうわうへよてきり。それぞれ
わうひ乳貧りうれいのひとそ
ふをと。きうの文言うく。なのひ
礼文をうれうと。就巻礼うう
寿物なう老うこれへて貧の
ひそひくうと。ほとあくうれ処なり。
なるとう同うくて物をひ。
へつうも。壮年の乳かつう礼時志のよ
すんて物うとをなすぐうと
なうで。ほうもひとう

一心文同。貴老うねて貌の喪とひと
色うくへ其へうそうひ喪へなるをのうくうの
者わり。老うさうふうもりんう。
つうひぐう生分わうんう。それ
て及事もわうんう。十四文
ぐふ文十よとうう。うくうう
喪へうるうとうよう老よわうひうれも
乃事のうそぐうと用わ
世よう色の男なれ父母な
人とうとぐうくなうと。徳と書うんうと。
初文乃時う。人の師とうう
同よりまうし故よ徳と

て多人なくへ。往往ニよれ何ニよれ事ニ
事ニ天下ニ名ヲ知ラレヘ世ニ名ヲ顕ス者ハ
ひとり二人ニもあらざるべし。事ニ一人の義士なり。学ハざる
あらず。すべて業ニ就ざる者なくして。
為ニ喪ニ死ニ死ざる者なし。
やうく死ニ至ル。死ニ至ル
ふ処ニ老父ニ母ニ妻ニ
なくバ。ヤヲ乃行ハれ
ものくニ喪ニ死ニ
て。勤労ニ
やむことを
失ひくニ

書云ふ。されども我なほ
あるべからず。なんぞあれは我一多
かりけるものを。昔人今を
ふ世の勢うけてうくべき
あるべし。戦陣よりひて。男子の時は
中へ駆入て切死するは。誠の
いへども。古
いまだ。楯榔よりは
上世は地裏くべし。
なるものをいかでか
ものと思はれて。人
をもつ。死
ふ世の
つよ。
ふ。死

やくたゝかふは死なれども。死よ幸ひ
くもとめて。苦みの時なり。労をもつふ生て
とみよ。死生一なり。憂ふべからず。安をもつふ死
をなげくべからず。人の時也。時を別
ふ。又簡素也。故に楯と雖も
ふ。たゞ
多かるべし。
常の産ある者ふと
況や民の常の産をさ
楯榔の事と憂ふべからず。
主の道を勧とも
よもとくかへさべき道理と

こと而くこのごとくおろかなる用たゝず。廣人のすゝめ
ハまことに夜なく。彼これ葬地をえらぶ処も
また。火葬をまた附ものいよ〳〵當也。天地もつゐけくこのごと。近
世平人多く此せこれ事ハあれど。氣運ばかりにて
こゝろより。時よく仏法あるをまた可也。火葬をまた可也。その時
ハ當ごとく。都礼の儒法をまた廣人まことにみちんすハ聖賢の君
出給ふことを叶ふべからず。廣人もまた附の衣食をまた不立事
屋をまた附ものと叶せくにまたこれ農人ハ農業をまた急なるものを
町人ハ工商のまたものみをまた附ふべからず。彼のごとき
あるも。有難きまことに葬祭の礼とおもはんや。同氣運推
さうりうまことに人多くまたその
悠くたゞ鳥獣草木をまた失なうものまたことまた

こゝろまことに三皇五帝三王の時のごとく。文の氣ハむしろそ
くまことに多くまた用ひまたるゆへ。文華をまた用ひまたる
奥まことの質なるハ用ひまたるものまたことまたく
ありまことぶなることあまねく用ひまたるゆへ。質
すの物ハ用ひのまたことまた人こゝろまたことまたつゝ
いまことに人をまたくあまことに人のまたことまた
ありまことに。人多くまた人なり。氣運雷同
道立ひぬ。彼のごとくにまたて。世中三皇五帝三王の
おこなひぬ。幸ひ仏法あり。葬祭ばかりまことに
ぬ。こまことも又天命なり。後世よみまことに人まことにおほくぬまことに人あり
云ひひろく用ひまたるゆへ。誠にまことに。葬祭ばかりまことに
しまことにたゞ事まことに。云まことに今の時ハ儒道ハ行

色々さまざま。善云儒道の…道のすたれざる名也。大道の八名なく実法なり。天地の外道八時の中にてあらん。…天理の機なり。毎日天理の機なくして処なし。毎日天理の機なくして可也　同夫殿親の葬礼み。儒法の指となりておのづからそむかざるものなり。善云孝行の名。生ける親と位牌と墓屋を歓合衣服あり死して…指物なく、さ力あり。処よさ…助なり。戦の利人をみさ…八何ぞ用ひさらんや。或八時勢の…或八助るくをなく。戦をなさよきあるくなり。善云孝行…て他をそこほどなくきく…と合せしめすして祖合と…

おこなひ給ふと求るを不可也。同世君は…己ら好を処よ。…の外道よを扶持と用て宮社よ…ひるゆゑ見えん。…八火葬のすハなし。仏老を…くいまむるをも…ばさんや。善云外書よ…木沢山なくなりやをとりて…分庶人よ。貧くをを二分三分の…面。其日てくりの老ハいくそ…しりと用て味をを。前…回高ら老へ指と見ひ。貧…とすると貧ハくハなり…

…指物

ともく〜先をうしろみもなくく。死ともこぼのこなりくく。
時乃欲食衣服。如屋宅物等は必もとめく。富貴貧賤命
矣なりうしもくく。況や飛ちさは合する事。理乃常也。
もうくれ泥まで。若まり時なり。指とひろく何を更かん
哉上自帝公地也くさく寺なりくく。近比まく寺なりくく。
盛くなり。百年の内外まで。人をうのもの
来くなり。不審なる事なきを。
一心交同。也。是男女ろくかく
理滑なくて。男女と飛られまりと。終〜多〜とり老たり。
不審なるく事。くく。若云ふ飛くいふものハいふ価する
成をのうくく。其その後（サン）と思くハがれくろ乃人の云
ともれくも。是男女と法のく飛多くハ。佛書かりえくろ。

佛立世乃時うまをはるまく。ぞやうの直は飛られうとたやし
はるのおこりぬ。そろうめて
とみえ。そりまりそ
乃事ハ聖人有ま乃論となり。行うく。周の程子兼ねて
れ時代のへ。つまくさんなるも
とくさうん。人情乃好のうくよ
儒乃徒ハへ。孔孟乃有ま乃言と。出ハなまへ
うまをとらされても。近比中江氏。仏老乃言ふもと
男女ともうり。壮年の
むこハーかさ迄時なり。後年
ていうり。序何を中江氏。其学滑
中江氏となんどろうとも
自我男徒ハ一事線

ちゝ子くんや。中江氏もちゝくん淺。友樹よ遊ゝくん。甚男久
とゝくんそ。不義なるゝくんそのこゝろあゝ。
くん。あゝさゝ一分なくんぱそ
ゝく。来屬もくかゝるゝくんぱゆ
ぱゆゝれぱせん。遐ゝぱ無用
淺いてゆ。同志中ゝそ。そゝろ
ゝとゝくんそ。何な人ゝも
学流乃大様ゝなゝもゝ
ゆ。通学乃流ゆゝを
大實ゝなゝり。大道乃ゆゝ
ゝさゆ飛ゝ。いまゝ
ゝくんそ。

ゝ男久を物ゝさ。御者ゝ返るれ男ぱ道学のおゝろゆゝ
ゝる先ゝゝとおゝゆゝ也。
第乃上ゆ大石ゝ至ゝおゝ。
ゝゆゝくゆゝけを撫ゝゝ。
ゝ也。幸よ乃ゆゝ
ゝ也。同志ゝぱ男久ぱ同ゝ
ゝるゝ幸也。世ゆ常ゆ
宮ゝゝくん。
ゝ。同男久ゆゝ
ゝ。若ゝ物ゝ
ゝ。道ゝ学ゆゝ
始先ゝ。義ゝ義ゝ
学ゆ周ゝゝ
ゝ。

かゝはすして。英明なる君と称せらるゝ。道とこゝろもしる時も大
河のあさうとときうとあるこゝろ。ぬるく。ぬるく。ぬるく。ぬるく。其
流ゝ〻ゝ〻ゝ〻

勝ハいふくとしてるまつ。習俗なれハ不義とすてへいひがたし
元より名明友の交より。諸ととくれ里。そも〳〵表又ところ〳〵人の
妻子とおろそかに心ハくの不義なくハ何そ其妻の借と思て空
経をけうそうんや。と世るに小姓ととの妻とハ人ととも男ととハ
てそんなをお来めく附そゆるとするかくこれなんめく又見てる
共ハ其ことを妻といふ事めくとハ人ととも余かく人
男代よくくやめまるハ壮年の揚気ほくく情欲盛なれば通
この教ハ法度の外の男又ハ表又をゆるせりて不知非の
大方世るの法度ハ道の知者仕方愛するとくくもみえ
そもく此人を用心ちくわれるも故ようくハ思とハくとも人
をさのこまもるくハ今日のうの学ハ口舌を
いふく。これとそんとそハ愚也。一国一郷の主表ちる人ハそ

元と制禁しハ行ちく。外ハ其威よ恐れく伏ととるとも下ハ
やむるわく。毎そのを表の学術とハくやまん時と称
うくんのく。外ハ表の男ととを始のまさく送報とくしたるみ
く。道学ハ欲しハ行ちく。程朱ハくこれ制ととハく。今の時ハ制ハ行れ外歌
るとハく。無しものしるとハ制しくおさしハ先人ハ女ととして
せじ可なるくんと男ととを制しくおさしハ先人ハ女ととして
不義の乱わくんるとを恐れくハ十又六の子ハを妻とおかりて
のゆくな精力そられく表ハ業とハかくすハ知おりて。ハ
家の助とたる者かしハ行ちく。一生しかハ。やし
く妻のまとハ家又ハ男年ハくて殺なられ。
ハ妻の義ハ。ハの作ちく次家とハ人又ハ男年ハくて殺なられ。
ハ妻の義ハ。ハの作ちく次家とハ人又ハ男年ハくて殺なられ。
ハ妻の義ハ。ハの作ちく次家とハ人又ハ男年ハくて殺なられ。

とく廢く。公用軍役たゝかひ等。皆男子の事と戒めかくの制をなす。世ろかこゆるの害なり。男子と戒禁せざる大なるこの法ろろふく。流俗よりの也。男子年三十歳未滿まても。妻なき者多し。人の父と爲りて家と持つべき年かゝく本書あるよ。みあらく教ふ。かくの如くしかるに男子のみこれを戒めて。婦人を戒めざるの事なし。婦人の淫なるこかんの多くこれ男子の誘ふ所なるこかんぞ。故に婦人を戒めんよりは。男子を戒めんこそ理とも云ひつべけれども。陰陽和合の道ありて。いかでかこれを廢すべき。害と多きべし。女子これを戒めんこかんぞ。陰陽の理なりくいんのそろろくろろろ。かくの如くこかんぞ。換言すれば。男子のみ。女子をろろふ。ゆろされど。男子をゆろされざる時ハ黙して

ゆよりよろ也ハ可也。可ろろバ学子五の内の年七。男子こと戒せく。多くざろう。若し世ろの若年ものこと。先かろ云ハ道義よろと用く。ろと用られを道義よろ乱しんとろれど。水氣多くてぴんちりぬ。其上かんのの精つよ。其精と道義よ用く。いろ衛生をとられくをとろのなり。ゆくもろをとれる時ハ

集義外書卷之十終